



第36回 グリーンイノベーションプロジェクト部会 産業構造転換分野WG発表資料

プロジェクト名：「硫化物系固体電解質の量産技術開発」

実施者名：出光興産株式会社

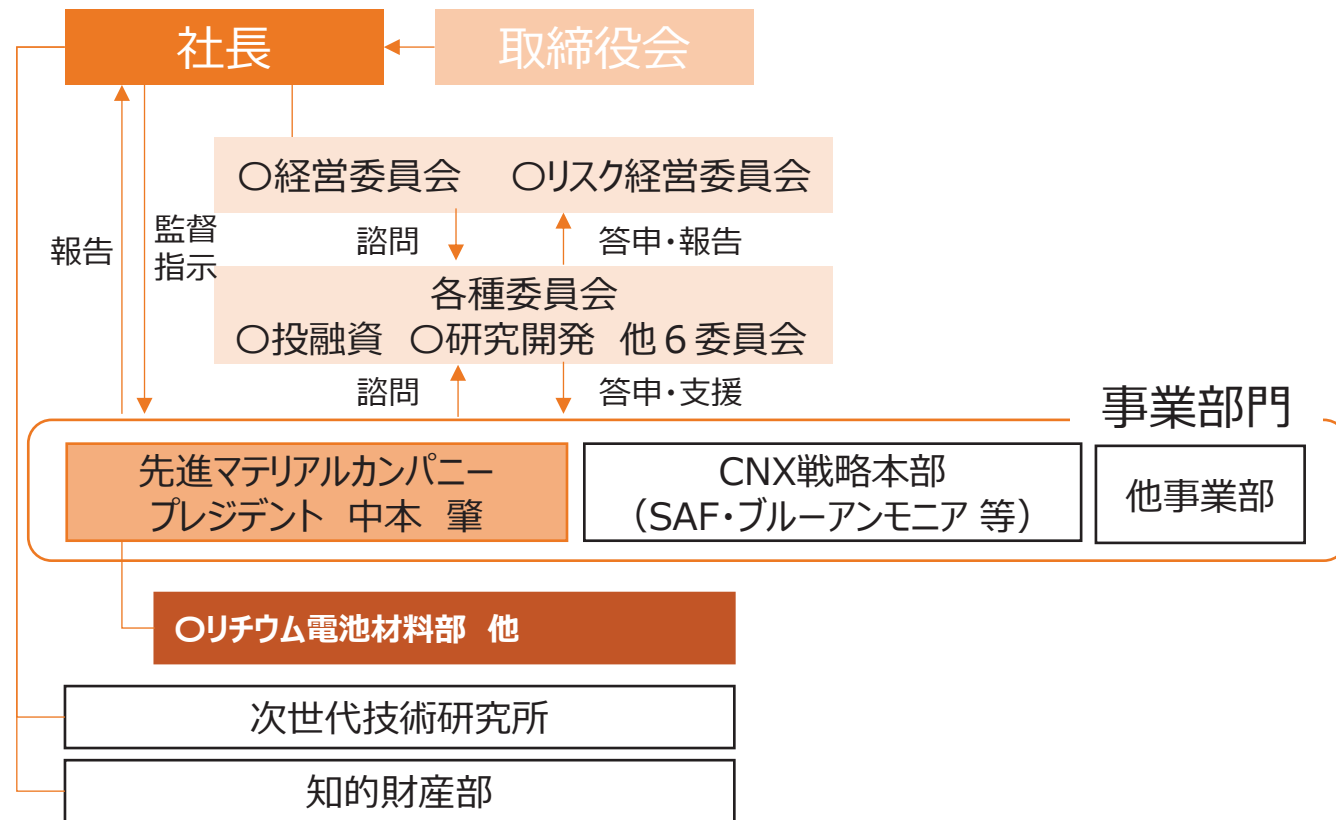
説明者：代表取締役社長 酒井則明

2026年5月15日

公開パート

事業推進体制

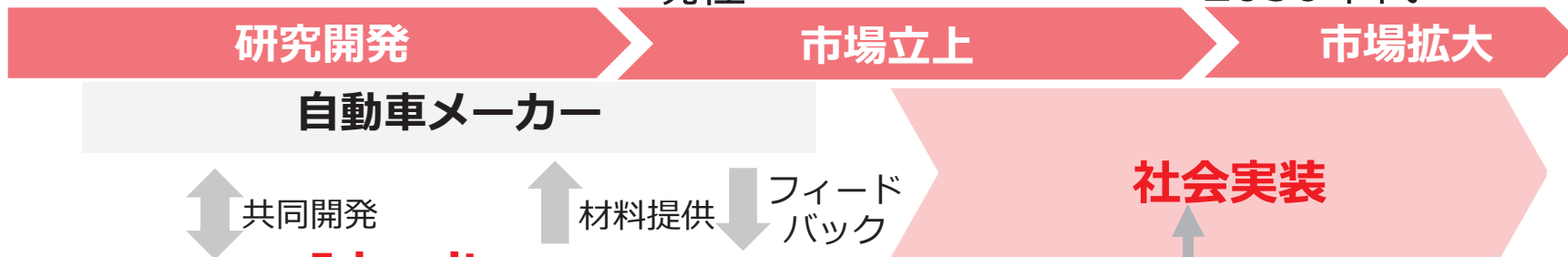
本プロジェクトはリチウム電池材料部にて推進
先進マテリアルと位置づけ社内カンパニーの枠組みで運営



事業の進捗状況

社会実装に向けた固体電解質の供給体制構築のため、
 硫化リチウム大型量産装置/固体電解質パイロット装置の建設を決定

現在 2027-2028 2030年代



Idemitsu

固体電解質
 *硫化リチウム

小型実証設備



2021年11月稼働
 2024年度 能力増強

小型実証設備
 (委託先)

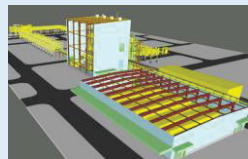
*固体電解質の原料

パイロット装置



2025年12月建設決定

大型量産装置



2024年12月建設決定

大型
 量産装置
 (商業規模)

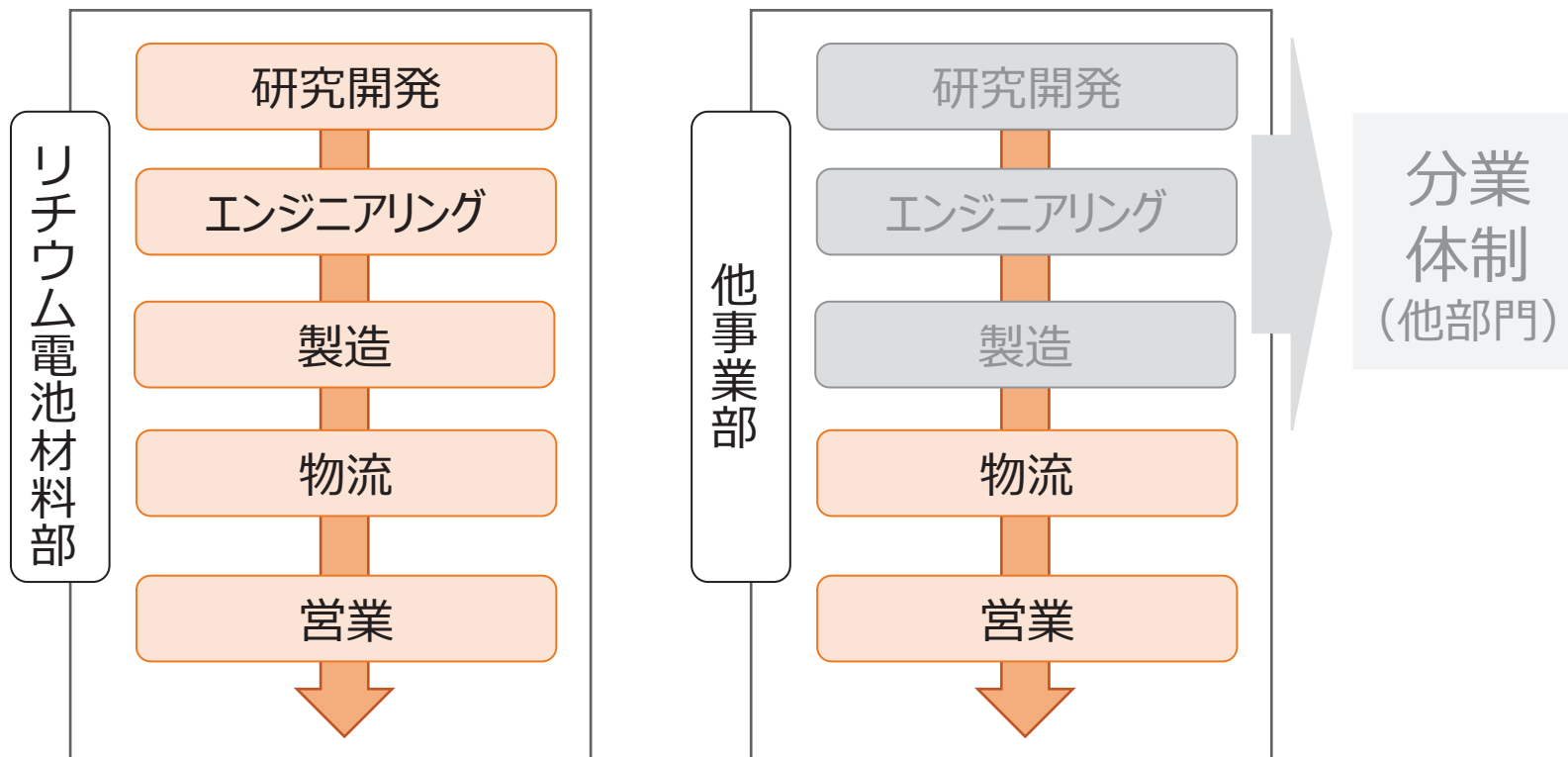
社会実装

技術開発の進捗

- ✓ 小型実証設備にてKPIを達成し、パイロットへのスケールアップに移行 (十数t→数百t/年)
- ✓ 27年パイロット装置完工に向け建設中

経営者としてどのようにGI基金事業に関与したか

部門内完結型の組織体制を構築し、意思決定を効率化。
迅速な対応が可能



標準化に向けた取組

材料という特性を踏まえた標準化の取組を推進

	オープン戦略	クローズ戦略
電池	OEMが主体となって推進中 →固体電解質提供により間接的に協力	—
材料	基礎物性・安全性評価において検討を進めている	技術パッケージ ・国内外特許網の構築 ・製造関連ノウハウの蓄積と保護

前回WG意見への対応

前回WG意見	対応状況
<p>プロジェクト推進やその成果活用を見据えて若手人材の採用・育成に取り組むとともに、技術動向や市場動向の変化に対応できるよう経験者も積極的に採用するなど、グローバルな市場獲得を見据えた体制整備に取り組んでいくことが重要。</p>	<p>原料から電池・EV車といったサプライチェーン全体を俯瞰出来る体制構築をすべく以下の採用・育成を実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・社外の経験者を中途採用で積極的に獲得・企業・アカデミアとの共同研究を通じた若手育成・情報収集強化に向けた海外現地スタッフ採用
<p>各素材に必要となる希少金属等の需要が高まっている中、サプライチェーン全体の在り方も念頭に置きつつ、複数の対策シナリオの検討を進めていくことが重要。</p>	<p>複数ソースを確保すべく調達戦略を策定しており、市場拡大期における原料の安定調達が可能な体制構築を図っている。</p> <p>全社として資源への資本参加による情報収集、事業化検討も推進中。</p>
<p>標準化戦略の策定・実践は、事業戦略と技術戦略の統合のための有効な手段であり、経営層が自ら主導して、標準化戦略を検討する体制を敷いていくとともに、関連団体ともしっかり協議・連携しオープン＆クローズ戦略を明確化しながら進めることが重要。</p>	<p>電池・xEVでの標準化に材料提供という形で協力をすると共に、材料という性質を踏まえ物流・評価法などの標準化に向けた取組を推進している。一方で、デファクトスタンダードのポジション獲得には、いかに早く技術を確立し、市場への供給力を確保するかが重要と考えており、経営も一体となり迅速な推進体制を敷いている。</p>

以上